

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書  
【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項  
【提出先】 関東財務局長  
【提出日】 平成24年2月10日  
【四半期会計期間】 第64期第3四半期(自平成23年10月1日至平成23年12月31日)  
【会社名】 丸藤シートパイル株式会社  
【英訳名】 MARUFUJI SHEET PILING CO.,LTD.  
【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 志村 孝一  
東京都中央区日本橋本町1丁目6番5号  
【本店の所在の場所】 (同所は登記上の本店所在地であり、主な本店業務は下記「最寄りの連絡場所」で行っております。)  
【電話番号】  
【事務連絡者氏名】  
【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋本町3丁目7番2号  
【電話番号】 03(3639)7641  
【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員 管理本部長 藤原 草地 郎  
【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
丸藤シートパイル株式会社 札幌支店  
(北海道札幌市中央区北三条西1丁目1番11  
第一生命日藤中山札幌共同ビル)  
丸藤シートパイル株式会社 東北支店  
(宮城県仙台市青葉区二日町12番30号  
日本生命勾当台西ビル)  
丸藤シートパイル株式会社 関東支店  
(埼玉県さいたま市浦和区仲町1丁目14番8号  
三井生命浦和ビル)  
丸藤シートパイル株式会社 名古屋支店  
(愛知県名古屋市中村区名駅3丁目8番7号  
ダイアビル名駅)  
丸藤シートパイル株式会社 関西支店  
(大阪府大阪市中央区今橋3丁目2番20号  
洪庵日生ビル)

(注) 札幌及び東北の両支店は法定の縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜のため縦覧に供する場所としております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次	第63期 第3四半期 連結累計期間	第64期 第3四半期 連結累計期間	第63期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年12月31日	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高 (百万円)	16,600	17,721	22,791
経常利益 又は経常損失( ) (百万円)	466	546	18
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失( ) (百万円)	407	298	255
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	456	252	263
純資産額 (百万円)	23,060	23,213	23,253
総資産額 (百万円)	35,698	37,500	36,025
1株当たり四半期純利益又は 四半期(当期)純損失( ) (円)	11.18	8.21	7.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	64.6	61.9	64.5

回次	第63期 第3四半期 連結会計期間	第64期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益又は 四半期純損失( ) (円)	0.36	1.92

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第63期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
- 4 第64期第3四半期連結累計期間の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 第63期及び第63期第3四半期連結累計期間の「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益」については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災の影響で依然厳しいなか、サプライチェーンの立て直しや各種政策効果などにより緩やかな持ち直しの傾向が続きました。しかしながら、電力供給の制約や原子力災害の影響に加え、欧州債務危機等を背景とした海外景気の下振れや円高及びデフレの長期化による影響が懸念され、依然として不透明感が払拭されないまま推移しました。

当社グループが属する建設業界におきましては、設備投資における建築着工は振れを伴いつつも緩やかな増加傾向にあります。公共投資は依然として低調に推移しているものの、補正予算の執行が徐々に進み、公共工事の増加の動きがみられました。

このような環境の下、当社グループは受注の確保に注力し、工事及び加工においては、質と生産性の向上に取り組んでまいりました。また、東日本大震災の津波被害により操業停止に見舞われておりました仙台工場につきましては、早期の復旧を緊急重要課題とし対応を進め、4月中旬から部分操業を経て5月30日より通常操業を開始し、12月末までには完全復旧をしております。なお、前連結会計年度に閉鎖いたしました旧福島工場（福島県二本松市）の土地及び建物は、7月より収益に寄与できる形で、資産の有効活用を図っております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は177億21百万円（前年同四半期比6.8%増）、連結営業利益は3億73百万円（前年同四半期は連結営業損失5億94百万円）、連結経常利益は5億46百万円（前年同四半期は連結経常損失4億66百万円）、連結四半期純利益は2億98百万円（前年同四半期は連結四半期純損失4億07百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は375億00百万円となり、前連結会計年度末と比較して14億74百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金が7億88百万円増加、受取手形及び売掛金が5億88百万円増加、建設資材が3億40百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は142億86百万円となり、前連結会計年度末と比較して15億14百万円の増加となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金が14億41百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は232億13百万円となり、前連結会計年度末と比較して39百万円の減少となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べて2.6ポイント下降し、61.9%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、東日本大震災の本格的な復興に向けて補正予算による投資が見込まれるものの、その開始時期及び計画規模が不明確な状況であり、それらの外部要因が経営成績に大きな影響を与える可能性があります。当社グループは、リスク発生の回避を目的とした情報の収集・分析及び対応に注力してまいります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

市場の先行きは、震災復興需要による押し上げ効果は見込まれるものの、復興需要以外では依然として低調に推移することが予想され、厳しい経営環境が続くものと思われれます。そのような環境下で当社グループは、会社の体質を根本から強靱なものにし継続的企業を実現するために、安全の確保・コンプライアンスの徹底によるリスク管理、人材育成と後継者育成、情報システムの見直しによる業務効率化等により、「経営資源の最適化」と「経営効率の改善」を図るとともに、適正価格に達していない賃貸価格の改善と受注加工・工事の拡大に取り組んでまいります。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	147,667,000
計	147,667,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	40,000,000	40,000,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であり ます。
計	40,000,000	40,000,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年12月31日	-	40,000	-	3,626	-	5,205

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成23年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,564,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 36,220,000	36,220	
単元未満株式	普通株式 216,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	40,000,000		
総株主の議決権		36,220	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式102株が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 丸藤シートパイル株式会社	東京都中央区日本橋本町 1丁目6番5号	3,564,000		3,564,000	8.91
計		3,564,000		3,564,000	8.91

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,043	4,831
受取手形及び売掛金	10,059	10,648
商品	153	192
建設資材	12,375	12,715
仕掛品	28	42
貯蔵品	51	50
その他	480	347
貸倒引当金	336	309
流動資産合計	26,855	28,519
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,583	4,214
その他(純額)	1,887	1,693
有形固定資産合計	6,470	5,908
無形固定資産		
	29	23
投資その他の資産		
その他(純額)	2,766	3,151
貸倒引当金	98	103
投資その他の資産合計	2,668	3,048
固定資産合計	9,169	8,980
資産合計	36,025	37,500
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,199	7,640
短期借入金	5,180	5,180
未払法人税等	31	148
引当金	256	140
その他	668	741
流動負債合計	12,336	13,851
固定負債		
引当金	188	179
その他	247	255
固定負債合計	435	435
負債合計	12,772	14,286

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,626	3,626
資本剰余金	5,205	5,205
利益剰余金	15,210	15,218
自己株式	796	797
株主資本合計	23,245	23,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	39
その他の包括利益累計額合計	7	39
純資産合計	23,253	23,213
負債純資産合計	36,025	37,500

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	16,600	17,721
売上原価	13,937	14,276
売上総利益	2,662	3,444
販売費及び一般管理費		
報酬及び給料手当	1,481	1,416
賞与引当金繰入額	61	93
退職給付費用	181	172
その他	1,532	1,388
販売費及び一般管理費合計	3,257	3,071
営業利益又は営業損失( )	594	373
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	7	7
受取地代家賃	91	122
その他	82	112
営業外収益合計	183	245
営業外費用		
支払利息	33	32
不動産賃貸費用	8	18
その他	13	21
営業外費用合計	55	72
経常利益又は経常損失( )	466	546
特別利益		
固定資産売却益	24	6
貸倒引当金戻入額	60	-
特別利益合計	84	6
特別損失		
固定資産売却損	2	1
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	8	-
減損損失	144	-
事務所移転費用	43	-
災害による損失	-	15
その他	10	1
特別損失合計	209	18
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	591	535
法人税、住民税及び事業税	21	140
法人税等還付税額	-	34
法人税等調整額	204	130
法人税等合計	183	236
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	407	298

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	407	298

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	407	298
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	49	46
その他の包括利益合計	49	46
四半期包括利益	456	252
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	456	252

【継続企業の前提に関する注記】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間  
(自平成23年4月1日  
至平成23年12月31日)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形及び確定期日現金決済（手形と同じ条件で手形期日に現金決済する方式）の会計処理は、手形交換日及び入出金日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形及び確定期日現金決済分が、四半期連結会計期間末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形及び売掛金	-	227百万円
支払手形及び買掛金	-	134 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	335百万円	294百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	291	8.00	平成22年3月31日	平成22年6月28日

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	291	8.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

当社及び連結子会社の事業は、建設基礎工事用鋼製重仮設資材等の販売、賃貸及び資材提供に附随する工事、加工、運送等であり、建設現場において使用する資材に関連して一体となって提供するものであります。その性質、市場の類似性を考慮すると単一セグメントであるため、記載は省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益又は四半期純損失( )	11円18銭	8円21銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失( )(百万円)	407	298
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失 ( )(百万円)	407	298
普通株式の期中平均株式数(千株)	36,441	36,435

- (注) 1. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月6日

丸藤シートパイル株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 欽 哉 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 正 伸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている丸藤シートパイル株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、丸藤シートパイル株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。